



信頼の意味に関する日中比較 : 自由記述の分析を基に

林, 萍萍

(Citation)

神戸大学国際文化学研究推進センター研究報告書, 2021:52-71

(Issue Date)

2022-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81013372>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013372>



信頼の意味に関する日中比較

—自由記述の分析を基に—

A Comparison between Japan and China on the Meaning of

Trust:

Based on an analysis of the free description

林 萍萍

Pingping LIN

はじめに

社会において信頼が極めて重要な役割を果たしていることは、社会科学全般において広く認知されている。グローバル化や文化の融合に伴い、多様性や異なる文化的背景をもつ人々との共生が求められる中、対人関係や信頼関係が構築しにくくなっている。異なる文化的背景の個人が、対人相互作用においてどのように信頼関係を構築するかについて、新たな問題に直面している。

信頼に関する研究は 1960 年代に始まり、その後、心理学、社会学、経営学、経済学などの分野で広く注目されるようになった。信頼が、不特定の他者一般に対する「一般的信頼」と、特定の相手に対する「個別的信頼」に区別できることは、これまで多くの研究者によって提唱されてきた。

一般的信頼感に関するこれまでの国際比較研究では、日本人よりもアメリカ人のほうが高い一般的信頼感をもっていることが報告されている。Yamagishi (1988) では、アメリカ人大学生と日本人大学生を対象に調べたところ、日本人大学生よりもアメリカ人大学生のほうが一般的信頼感が高いと報告している。また、アメリカと日本を含む 8 か国の国際比較調査 (佐々木, 2014) によると、一般的信頼の測定に最も広く使用されている項目である「一般的に言って、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。」に対して、「信頼できる」と回答しているアメリカ人は 44.9%であり、日本人は 26.9%となっている。一方、日本人の一般的信頼感、同じ東アジア文化圏に属する中国の人々と比べて、低い水準にあることがこれまでの大規模な質問紙調査などで繰り返し明らかにされてきた。例えば、米国のピューリサーチセン

ターが 2007 年春に行った国際意識調査（Pew Global Attitudes & Trends）¹では、「この社会のほとんどの人は信頼できる」と思うかどうかについて 4 件法で尋ねたところ、中国では約 8 割の人が信頼している（「完全に同意する」または「同意する」と回答しているのに対して、日本では約 4 割にとどまっている。1981 年から継続的に実施されてきた世界価値観調査（World Values Survey Wave）では、いずれの wave においても、日本人よりも中国人のほうが「人はだいたいにおいて信用できる」と回答している割合が高い（図 1）。最新の調査である wave7（2017-2020）²において、中国では 6 割の人が「信用できる」と回答したのに対して、日本では、「信用できる」と回答した人は 3 割しかない。

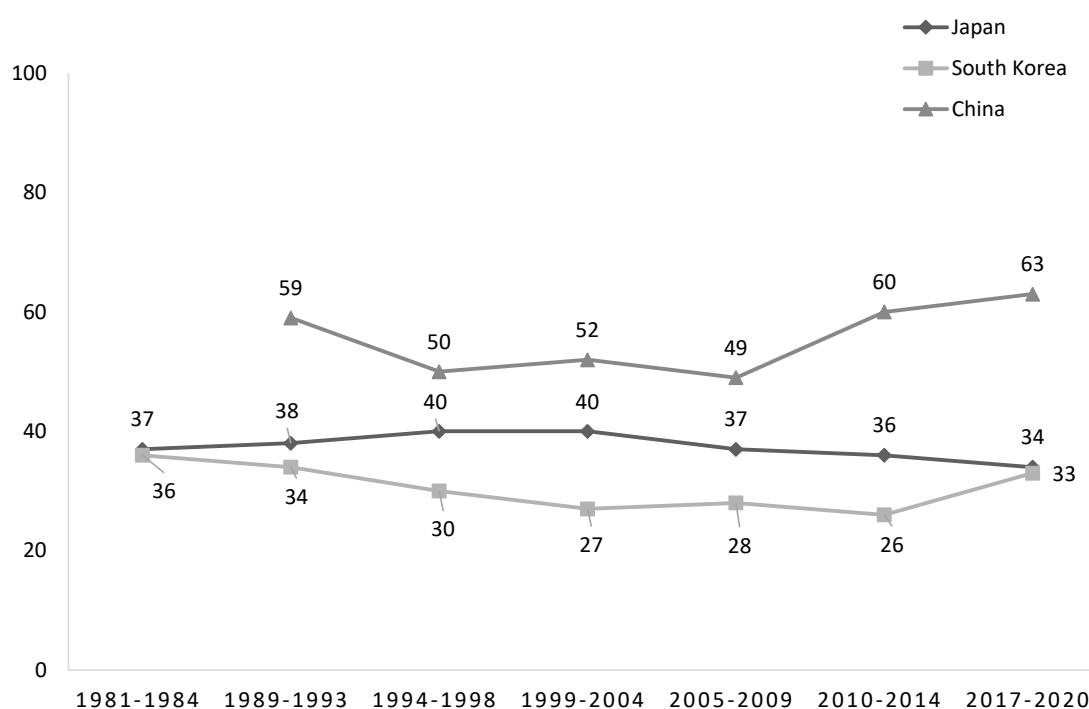


図1 世界価値観調査における一般的信頼感の推移の日中韓比較（World Values Survey のデータを基に筆者が作成）

2012 年に日本・韓国・中国・台湾の 4 か国・地域で実施された EASS 2012（East Asian Social Survey）³では、一般的他者を信頼していると答えた回答者の割合は、中国は 8 割と圧倒的に高く、日本が 5 割強にとどまっている。このように、東アジア文化圏においても、日本の一般的信頼感が低い水準にあることがうかがえる。さらに、統計数理研究所により、1953 年以来 5 年ごとに実施されている「日本人の国民性調査」（中村・土屋・前田, 2013）では、1978 年から 2013 年まで、「たいていの人は信頼できる」と思っている人の割合は

¹ Richard Wike, Kathleen Holzwart, (2008), “Where Trust is High, Crime and Corruption are Low”, Pew Global Attitude Report, April 15, 2008.

² World Values Survey, 2020, WV7_Codebook, <https://www.worldvaluessurvey.org/WVSDocumentationWV7.jsp>

³<https://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/EASS2012NetworkSocialCapitalModuleCodebook.pdf>

26%～38%となっている。日本人の一般的信頼感が低いままとなっており、過去 30 年間はほとんど変化していないことがわかる。

信頼は特定の社会構造と文化的文脈の中で構築され、維持されており、信頼を検討するには、その特定の文化的文脈から切り離すことができないと指摘されており (Janus, 2009)、信頼における文化の役割の解明が重要な課題である。これまでの信頼に関する文化比較研究の多くは、文化差についての指摘にとどまっており、信頼の性質、文化差を生み出す独自の文化的要素についてほとんど議論されていない。また、東アジア文化圏においては、日本人の一般的信頼感は中国人よりも大幅に低い理由については、いまだに解明されていない。

一般的信頼の国際比較における一般的な留意点として、「信頼感」のような主観的指標の実質的な意味とその国際比較可能性の是非や程度に関する知見を念頭に置く必要があると指摘されている (佐々木・吉野・矢野, 2018)。これまでの大規模な国際比較研究においては、「信頼」は比較可能の同じ指標とみなすことができるだろうか。日本と中国では、「信頼」は同じ意味として扱われているのだろうか。本研究では、日本人と中国人が思っている「信頼」の意味は異なるのかを検討する。

信頼の定義

信頼の研究では、同じ「信頼 (trust)」という言葉を用いているが、それが指す概念が同じであるとは限らない。さまざまな学者が、さまざまな視点に基づいて信頼を定義・分類しており、その定義はいまだに統一されていない。ここでは信頼の主な定義についてまとめる。

山岸 (1998) は、信頼のもっとも広い定義として、Luhmann (1979) の定義を援用した、「自然的秩序および道徳的社会秩序の存在に対する期待」という Barber (1983) の定義をもとに、信頼の「道徳的秩序に対する期待」という側面のみを採用した。また、山岸 (1998) は、Barber (1983) による下位分類を援用し、「道徳的秩序に対する期待」を「相手の能力に対する期待」と「相手の意図に対する期待」の 2 種類に分類することを提案した上で、信頼の内容を「相手の意図に対する信頼」に限定した。

「相手の意図に対する信頼」には、さらに「相手の人間性に対する期待」と「相手が自分を騙す意図をもっていないだろうという期待」という 2 つの側面がある。この 2 つの側面を区別するために、山岸 (1998) は、信頼とは別の概念として「安心」の概念を提案している。「安心」とは、相手が自分を搾取する意図をもっていないという期待の中で、相手の自己利益の評価に根差した部分である。これに対して、「信頼」は、相手が自分を搾取しようとする意図をもっていないという期待の中で、相手の人格や自分に対して抱いている感情についての評価に基づく部分に限られる。さらに、山岸は、「信頼」は、相手の意図についての情報が必要とされいながら、その情報が不足している状態を指す「社会的不確実性」の存在を前提としていると指摘している。すなわち、相手を「信頼」することによって、自らの身体、財産、評判などのデメリットが生じる可能性があるということであり、このような危険性がない (社会的不確実性のない) 状況では、相手を「信頼」する必要がないことになる。

信頼感の分類

信頼概念はいくつかの異なる水準で整理できる。Luhmann (1968=1988) は、信頼を、顔見知りの人間の人格に対する「個人に対する信頼」と、より一般化された「社会システムへの信頼」を区別している。社会システムへの信頼は、組織や制度に関わる信頼として捉えられる。

Putnam (1993) は、「知っている人に対する厚い信頼」と「知らない人に対する薄い信頼」を区別している。前者は家族との関係や親しい友人、親戚とのネットワークへの信頼が該当し、後者は一般的信頼を意味している。

山岸・小見山 (1995) は対象の評価値としての信頼を、対象の性質によって、他者一般の人間性の評価値に基づく「一般的信頼」、特定の相手の人間性の評価値に基づく「パーソナルな信頼」、特定のカテゴリーに属する人間の人間性の評価値に基づく「カテゴリー別信頼」に分けることができると指摘している。このように、多くの研究では、信頼は、不特定の他者一般に対する「一般的信頼」と、特定の相手に対する「個別的信頼」に区別している。

Lewis & Weigert (1985) によると、信頼感とは、相手の人格特性に関する知識に基づく「認知的信頼 (cognitive trust)」と、長期的人間関係や感情的つながりに基づく「感情的信頼 (emotional trust)」の2種類に分けられる。Mayer, Davis & Schoorman (1995) が提唱している信頼の統合的モデル (Integrative Model of Trust) によれば、認知的信頼には、能力 (Ability)、善意 (Benevolence)、誠実さ (Integrity) に基づいた期待という3つの次元がある。

認知的信頼と感情的信頼は、異なる文化の個人に同時に存在しているが、違いが報告されている。Chua, Morris & Ingram (2009) の調査によると、アメリカと比べ、中国のほうが感情的信頼と認知的信頼がより絡み合っていること、中国では経済的に依存している人に対して、より感情的信頼を寄せているのに対し、アメリカではそうした人々に対する感情的信頼をあまりもっていないこと、ある特定の関係が第三者との関係に深く組み込まれていることが、中国人の認知的信頼を高めているが、アメリカ人にはそうではないことがわかった。

一般的信頼感の日中文化差

上述したように、これまで繰り返し得られている一般的信頼感の日中文化差について、いまだに解明されていない。一方、林 (2021) では、考えられる仮説を以下のようにまとめている。

まず、一般的信頼感の設問に答える際に、中国人は周囲のもの（家族や親戚、友人、知人）を思い出しながら回答しているとすれば、中国人の高い一般的信頼を解釈できるという仮説がある（吉野・大崎, 2013）。この仮説を裏付ける研究として、多くの人々は「たいていの人は信頼できるか」と聞かれた場合、周囲の人々を思い出しながら回答することが多い。また、そのような回答者の方が、抽象的に一般的な人々を思い出しながら回答する人々よりも、信頼を高く評価する傾向があると報告されている (Sturgis & Smith, 2010)。林 (2020) は、日本人 128 人と中国人 155 人を対象に、一般的信頼感を評定してもらい、一般的信頼感の設問に対して、誰をイメージして回答しているかについて、「人間一般」「友人・知人」

「親兄弟親戚」等の 8 項目から、「想起する人」を選択してもらった。その結果、中国人は日本人よりも高い一般的信頼を報告していること、中国 (41.9%) は、日本 (21.1%) より、「親兄弟親戚」を想起した人の割合は高いことがわかった。一般的信頼の文化差における「想起する人 (親兄弟親戚を含む場合は 1; それ以外 0)」の媒介効果を検討したところ、媒介効果が有意であったこと、媒介効果を考慮しても一般的信頼感の日中文化差は依然と有意であったことがわかった。

次に、もし中国では、日本・韓国・台湾よりも強い「黙従傾向」と「社会的望ましさ」をもっているのであれば、中国人の高い一般的信頼を解釈できると考えられる。前者は同意を示すポジティブな回答を選好する傾向を指し、後者は、「他人を信頼している」と回答したほうがより望ましいと判断されると思い、他者を信頼していると答える傾向である。もし中国の高い一般的信頼は匿名性が担保される質問紙調査のみに見出されているのであれば、黙従傾向または社会的望ましさの強さによるかもしれないと推測できる。

一方、行動においても中国人は日本人よりも高い信頼を示していることが報告されている。信頼と行動の関わりを検証する実験 (信頼ゲーム) を、日本人、中国人、台湾人を対象に行った研究では、これまでの質問紙調査の結果と一貫しており、中国人が見知らぬ相手に示す信頼は、日本人が示す信頼を有意に上回っていることが示唆された (高橋, 2009)。具体的には、同研究で行った実験は、パソコンを介した匿名の状態、A と B の 2 人にそれぞれ役割を設定し、A 役の人には、お金を与え、「そのお金を B に預けて増やしてもらうか」、それとも「そのまま自分の手元に残しておくか」を選択してもらい、B 役の人には、A からもらったお金の何倍か増えたお金を、「その半分を預けた A に戻すか」、それとも「全部自分で取ってしまうか」を選択してもらうものである。

このように、質問紙調査と行動を扱った実験の結果も、中国人は日本人よりも高い信頼をもっていることを示している。ただし、信頼に関する行動は、実験室で観察されたものであり、実際の生活において、中国人も日本人より高い信頼行動をもっているのかについては、更なる研究が必要であると考えられる。

上述したように、信頼の定義はいまだに統一されておらず、信頼には多くの側面が含まれている。また、信頼の日中文化差についてはどう解釈されるのかについて、いまだに解明されていない。上述したいくつかの仮説のほか、もう 1 つの仮説として、社会調査における信頼の設問に回答する際には、回答者は「信頼」をどの意味でとらえて答えているのかは、結果に影響を与えるのではないかと考えられる。日本人と中国人が考えている「信頼」の意味合いには違いがあるのだろうか。もし違いがあれば、これまで見出されている一般的信頼感の日中文化差はその違いを用いて、説明できるかもしれない。そこで、本研究では、日本人と中国人が思っている「信頼」の意味が異なるのかを検討する。

方法

調査協力者 日本人大学生 298 人 (男性 193 人、女性 102 人、その他 3 人、平均年齢 18.8 歳、標準偏差 2.3) と日本人社会人 332 人 (男性 151 人、女性 180 人、その他 1 人、平均年齢 38.3 歳、標準偏差 10.3) の計 630 人、中国人大学生 519 人 (男性 162 人、女性 357 人、平均年齢 20.4 歳、標準偏差 1.4) と中国人社会人 261 人 (男性 129 人、女性 131

人、その他 1 人、平均年齢 34.4 歳、標準偏差 10.0) の計 870 人が調査協力者となった。

質問紙項目 「あなたにとって、信頼とは何ですか」および「信頼されるために大切なことは何ですか」という 2 つの質問について、自由記述形式で回答をもとめた。

手続き 日本人大学生の調査では、Forms で作成したアンケートのリンク先を心理学の授業で配布し、授業時間外に回答してもらった。日本人社会人の調査では、クラウドソーシングサービスの一つであるクラウドワークス (CrowdWorks) で行った。具体的には、Forms で作成したアンケートのリンク先をクラウドワークスにて公開し、65 歳までの既に働いている日本人であることをアンケートの参加条件としている。

中国人のアンケートは「腾讯问卷」というウェブサイト上で作成した。中国人大学生の調査では、中国の大学の授業中にアンケートのリンク先を授業中に学生に伝えて、授業時間外に回答してもらった。中国人社会人の調査では、筆者の WeChat (中国版 LINE と呼ばれる) の友人やグループチャットを通してアンケートリンクを配布し、回答を求めた。

調査の冒頭で、回答の任意性や個人情報の保護など倫理的配慮について明記した上で、参加に同意したもののみ質問項目を提示することになっている。調査は 2021 年 10 月から 11 月にかけて実施した。

結果と考察

KJ 法による分析

まず、得られた自由記述について、複数の内容が含まれる記述を、その意味に基づき、いくつか短い部分に分割した後、KJ 法 (川喜田・牧島, 1970) に準拠する形でカテゴリーの整理を行った。本来の KJ 法では、集めた意見をカードなどに書き出してからグルーピングを行うのであるが、本研究では、回答の基数が大きいことから、Excel 上で KJ 法の分析を行った。具体的には、Excel 上で回答の内容を記載したテキストボックス (矩形) を自動生成してから、作成したテキストボックスを移動したりして、KJ ラベルをグルーピングしていく。また、得られたラベルを分類・分析する際は、客観性をより確保するために、筆者の他、研究協力者である心理学の大学教員 1 名で実施した。具体的には、筆者が意味的に類似しているテキストボックスをカテゴリー化した上で、研究協力者にラベルとカテゴリーを提示し、それぞれの回答はどのカテゴリーに当てはまるか (どのカテゴリーにも当てはまらない場合、独自にカテゴリーを作ってもら) を判断してもらったところ、分類が不一致であった回答について、話し合いにより最終的な分類を決定した。

「信頼とは何か」に関する結果

「信頼とは何か」という問について、無回答や質問の意図から明らかに外れている回答または「わからない」と記述したものを除いて、日本人から延べ 701 の回答、中国人から延べ 943 の回答が得られた。

これらの記述内容を KJ 法によりカテゴリーを分類したところ、日本人では、15 のカテゴリーが得られた (表 1)。「信頼の大切さ・必要性・獲得困難・脆弱性」(13.4%) が最も多く、次いで「繋がり・絆・関係性の象徴」(13.0%)、「頼り合う・助け合う」(11.7%)、「素でいられる・心を許せる・なんでも話せる」(11.7%)、「相手を信じる・お互いに信じ合う」

(7.7%)、「安心」(5.6%)、「嘘をつかない・正直さ」(5.4%)の順となっている。最も多いカテゴリーである「信頼の大切さ・必要性・獲得困難・脆弱性」は、すべて信頼の重要性や性質に関する記述であり、ここでは、「獲得困難」とは、信頼を得るのが難しいことや、信頼を得るには時間がかかるなどに関する記述であり、「脆弱性」とは、信頼を簡単に失う・崩れるなどに関する記述であった。

表1 「信頼とは何か」についての日本人の記述

カテゴリー	項目数	割合	項目内容（記述例）
信頼の大切さ・必要性・獲得困難・脆弱性	94	13.4%	・目に見えないものの中で1番大切なもの ・生きていくためには必要なもの ・得ることはとても難しく、無くすのは簡単なこと
繋がり・絆・関係性の象徴	91	13.0%	・人と人との繋がりを強固にするもの ・心の絆 ・人との関係性の象徴
頼り合う・助け合う	82	11.7%	・頼りにしたりされたりする事 ・困った時に助け合える心。
素でいられる・心を許せる・なんでも話せる	82	11.7%	・気を使わずありのままの自分で居れること ・心を許せる人にするもの。 ・腹を割って何でも話せること
相手を信じる・お互いに信じ合う	54	7.7%	・相手を信じること ・お互いに信じ合える間柄
安心	39	5.6%	・心配や不安を感じる事がなく、大丈夫という安心感を持てるもの。 ・一緒にいて安心できる関係性
嘘をつかない・正直さ	38	5.4%	・嘘をつかないこと ・正直に話す
思いやり・配慮	34	4.9%	・お互いがお互いのことを大切だと思い、思いやりを持つこと ・相手のためを考えて動くこと
不利なことをしない	33	4.7%	・自分にとって不利なことをしないこと ・自分に危害を及ぼしそうにない
任せる	33	4.7%	・役割を人に任せることができること ・この人になら大事なことを任せても大丈夫だと思えること
相手への期待	24	3.4%	・相手に対する期待 ・期待通りの結果を得られる相手
相互理解・尊重・容認	33	4.7%	・言葉を介さずとも理解し合えること ・お互いに対する最大の敬意
約束を守る・有言実行	8	1.1%	・約束を守ること ・有言実行
人格・性格	10	1.4%	・アイデンティティの1つ ・真面目さ
その他	46	6.6%	
合計	701	100.0%	

一方、中国では、20のカテゴリーが得られた（表2）。「相手を信じる・お互いに信じ合う」（11.8%）に関する記述が最も多く、次いで「頼り合う・助け合う」（10.7%）、「素でいられる・心を許せる・なんでも話せる」（10.6%）、「誠意・誠実さ・正直さ」（10.3%）、「託せる」（7.3%）、「不利なことをしない」（7.2%）、「安心」（5.3%）の順になっている。

日本人と中国人のカテゴリーを比較したところ、多くの共通のカテゴリーが得られた。日中とも「頼り合う・助け合う」「素でいられる・心を許せる・なんでも話せる」「相手を信じる・お互いに信じ合う」「安心」を多く挙げていることから、日本人と中国人にとっては、信頼とは、「お互いに信じ合うことで、心を許せて素でいられて何でも話せるという安心できる存在であり、困ったときに頼り合う・助け合う存在である」ことが示唆された。他にも、「不利なことをしない」「任せる」「相互理解・相互尊重」「思いやり」「約束実行」「人格・性格」などのカテゴリーは、日本人と中国人に共通して得られた。

一方、日中とも信頼の大切さに関する記述がみられたが、日本においてのみ、信頼の獲得が難しいことや、信頼を簡単に失う・崩れることに関する記述が多くみられた。一方、割合が小さいものの、日本人にはなかったが、中国人にはあったカテゴリーがいくつかあり、例えば、「疑わない・警戒しない」「リスクを負う」「平等・対等」「能力」などが挙げられる。

表 2 「信頼とは何か」 についての中国人の記述

カテゴリー	項目数	割合	項目内容（記述例）
相手を信じる・お互いに信じ合う	111	11.8%	・他人を信じる ・お互いを信じること
頼り合う・助け合う	101	10.7%	・互いに頼り合うことである ・助け合うこと
素でいられる・心を許せる・なんでも話せる	100	10.6%	・私は遠慮なく自分の本音をすべて話すことができる ・その人に何でも言えるということ
誠意・誠実さ・正直さ	97	10.3%	・誠実で正直な対応 ・他者への誠意ある対応
託せる	69	7.3%	・何でも任せられること ・一度信頼を置くと、何か完全に誰かに委ねられる
不利なことをしない	68	7.2%	・この人は私を傷つけるようなことはしない ・他人の行動が自分に悪い影響を与えない
安心	50	5.3%	・相手から安心感を得る ・一緒にいて心地よい
信頼の大切さ	43	4.6%	・友達を作る上での第一のルールである ・生活必需品
疑わない・警戒しない	42	4.5%	・私は彼がやっていることを疑わない。 ・警戒心を捨てる
相互理解・相互尊重	41	4.3%	・語り合い、理解し合えること ・互いを尊重し合うこと
約束を守る・有言実行	37	3.9%	・約束を守り、言ったことは必ず守る ・約束したことを必ず実行すること。
人格・性格	43	4.6%	・人格・道徳観 ・性格は鍵である
他者に対する評価・承認	29	3.1%	・人を認めること ・相手に対する評価
絆・愛	18	1.9%	・愛 ・人と人の中にある唯一の温もり
思いやり	16	1.7%	・困ったときにお互いを思いやること ・心配り
共同作業	11	1.2%	・一緒に仕事などを行うことができる ・相手と一緒にになって課題に取り組むことができる
リスク	10	1.1%	・相手のためにリスクを取る姿勢 ・嘘をつかれることを恐れない
平等・対等	8	0.8%	・平等であること ・対等な立場
能力	7	0.7%	・能力 ・物事を行う効率
その他	42	4.5%	
合計	943	100.0%	

「信頼されるには、大切なものは何か」に関する結果

「信頼されるには、大切なものは何か」という問について、日本人から延べ 805 の回答、中国人から延べ 1068 の回答が得られた。

これらの記述内容を KJ 法によりカテゴリーを分類したところ、日本人では、17 のカテゴリーが得られた（表 3）。「嘘をつかない・誠実さ・正直さ」に関する記述が最も多く、全体の 3 割（32.8%）を示しており、次いで「コミュニケーション」（11.4%）、「約束を守る・有言実行」（9.7%）、「相手を信じる」（6.8%）、「他者配慮・思いやり」（6.2%）、「性格」（6.1%）、「日頃の言葉遣い・行動・態度」（5.5%）、「素を見せる・打ち解ける」（5.3%）の順となっている。

表3 「信頼されるには、大切なのは何か」についての日本人の記述

カテゴリー	項目数	割合	項目内容（記述例）
嘘をつかない・誠実さ・正直さ	264	32.8%	・誠実さ・嘘をつかないこと ・正直であること
コミュニケーション	92	11.4%	・相手の話を聞いたり相談に乗る ・会話を多く交わすこと
約束を守る・有言実行	78	9.7%	・約束を守ること ・自分が言ったことは実行する
相手を信じる	55	6.8%	・まず相手を信頼する ・自分からその人を信頼すること
他者配慮・思いやり	50	6.2%	・相手の気持ちを考えること ・相手を思いやること
性格	49	6.1%	・人柄の良さ ・性格
日頃の言葉遣い・行動・態度	44	5.5%	・日頃の行い ・言葉遣いに気を付ける
素を見せる・打ち解ける	43	5.3%	・自分の素を見せることが大切だと思う ・心を開くが大切である
相手を助ける	18	2.2%	・相手が困っている時に手助けをする ・見えないところでその人の役に立つことをしてあげる
時間をかける	16	2.0%	・時間をかけること ・時間をかけて、関係を深めていくことが大切である
理解・尊重	14	1.7%	・相手のことを知る ・他人を尊重すること
裏切らない	14	1.7%	・信頼を裏切らないことが大切 ・相手をけして裏切らない
実績	14	1.7%	・経歴や実績などが明確であること ・信頼に値するレベルの実績をすること
相手の要求・期待に応える	10	1.2%	・まずは相手が望む結果を出す ・期待に応えたことを積み重ねる
一貫性	7	0.9%	・たえず一貫した考え方を持っていること。 ・人によって態度を変えたり気持ちに裏表を持たないこと
他者肯定	6	0.7%	・相手を褒めること ・自分も相手を認めること
その他	32	4.0%	
合計	805	100.0%	

中国人では、15のカテゴリーが得られた（表4）。「嘘をつかない・誠実さ・正直さ」に関する記述が最も多く、全体の4割（42.9%）を占めており、次いで「約束を守る・有言実行」（10.0%）、「人格・性格」（8.8%）、「相手を信じる」（7.4%）、「真心」（5.6%）、「日頃の言葉遣い・行動・態度」（4.6%）、「コミュニケーション」（4.2%）の順となっている。

日本人と中国人のカテゴリーを比較したところ、多くのカテゴリーは共通していることがわかった。日中とも「嘘をつかない・誠実さ・正直さ」を最も多く挙げていることから、日本人と中国人の両方とも、信頼されるには、嘘をつかないこと、誠実さや正直さが最も大切であると思っていることが示唆された。また、「相手を信じる」「約束を守る・有言実行」「日頃の言葉遣い・行動・態度」についても、日中とも多く挙げていることから、日本人と中国人の両方とも、相手の信頼を得るには、まず自分から相手を信じるのが大切であり、日頃の行動が信頼獲得につながると捉えていることが示唆された。

一方、日中の相違点について、日本人は中国人よりも、「コミュニケーション」と「他者配慮・思いやり」を多く挙げており、中国人は日本人よりも「真心」を多く挙げている。

「信頼とは何か」と「信頼されるには大切なのは何か」に関する記述を比較したところ、日中とも、「信頼とは何か」では、「助け合う」に関する記述は上位にあるのに対して、「信頼されるには」では、その割合はあまり高くなく、約2%しかないことがわかった。このよ

うに、日本人と中国人は、「信頼している人」とは困っているときに、助け合う存在であると解釈しているが、他者を助けることで、必ずしも信頼されるとは限らないと思っていることが示唆された。

表 4 「信頼されるには、大切なのは何か」についての中国人の記述

カテゴリー	項目数	割合	項目内容（記述例）
嘘をつかない・誠実さ・正直さ	458	42.9%	・誠実に人に接する ・嘘をつかない
約束を守る・有言実行	107	10.0%	・約束を守る。 ・有言実行
人格・性格	94	8.8%	・品格 ・性格
相手を信じる	79	7.4%	・相手を信じること ・相手を信じるという前提があつてこそ、より良い信頼を得ることができる
真心	60	5.6%	・心を込めて接すること ・真心
日頃の言葉遣い・行動・態度	49	4.6%	・日々の行動と言葉。 ・自分自身の実践的な行動で証明すること
コミュニケーション	45	4.2%	・コミュニケーションをできるだけ多くとること ・相手の話を聞く
理解・尊重	39	3.7%	・相手の本音と目的を理解する。 ・相手を尊重する
他者配慮・思いやり	27	2.5%	・他人の気持ちに気を配る ・相手の立場に立って考えること
他者を助ける	26	2.4%	・人が困っているときに助けること ・他の人が必要としているときにサポートを提供できる
能力	22	2.1%	・有能さ ・能力
裏切らない・騙さない	17	1.6%	・欺瞞行為がない ・人を裏切るような行動をとらないこと。
時間をかける	12	1.1%	・時間 ・長い時間を一緒に過ごす
名誉	8	0.7%	・名誉 ・良い評判
その他	25	2.3%	
合計	1068	100.0%	

テキストマイニングによる分析

自由記述による文章形式のデータを定量的に分析する手法としてテキストマイニングがある。テキストマイニングは、簡単にいうと、大量のテキストのデータに潜在する規則性や類似性を探索することができる統計手法である（大隅・保田，2004）。自由記述の分析において、KJ 法と組み合わせることによって、文脈を考慮に入れつつ、分析結果の客観性を担保する手法として用いられている。テキストマイニングの解析ソフトの一つとして、樋口耕一（2020）によって開発された KH Coder というフリーソフトウェアがある。KH Coder では、文章形式のデータに含まれる語を自動的に切り出し、多変量解析によって全体を要約すること、全体傾向を把握することが可能である。そこで、KH Coder を用いて、信頼感に関する記述の解析と客観化を試みる。

中国人のデータを分析する際には、まずすべての記述を日本語に翻訳した。翻訳の正確性と適切性を保つために、日本語がネイティブレベルで在日在住歴 10 年以上の中国人 1 名に依頼して、確認してもらった。

分析には、KH Coder の Version3 を使用した。分析の前には、まず、誤字脱字や表記の揺れなどを修正することで、データのクリーニングを行った。次に、データを KH Coder に

読み込ませ、前処理⁴を行った。テキスト計量分析では、頻出語の抽出、共起ネットワークの2つの分析を行った。

頻出語リスト

①「信頼とは何か」についての抽出された頻出語リスト

まず、「信頼とは何か」に関する自由記述について、頻出語を抽出した。前処理を実行した結果、日本人の総抽出語数は6,851（使用数2,867）、異なり語数は902（使用数719）、中国人の総抽出語数は9,976（使用数4,247）、異なり語数は999（使用数835）であった。頻度順で抽出した際の上位50位の語とその出現頻度を表5に示す。

日本人では、出現回数が50回を超えている語は「人」（138回）で最も多く、続いて「相手」（81回）、「自分」（83回）、「関係」（76回）、「信じる」（62）であった。その他、出現回数が多かった語は「安心」「お互い」「思う」「信頼」「心」「頼る」「人間」であり、いずれも30回を超えていた。

表5 「信頼とは」について抽出された頻出語リスト（上位50語）

日本人				中国人			
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	138	頼り	14	信頼	249	実行	17
相手	91	話せる	14	人	172	他者	17
自分	83	期待	13	信じる	142	託す	17
関係	76	築く	13	相手	127	知る	17
信じる	62	相談	12	自分	106	嘘	16
安心	45	認める	12	誠実	63	共有	16
お互い	43	行動	11	他人	56	正直	16
思う	43	話す	11	安心	55	完全	15
信頼	38	時間	10	お互い	41	言える	15
心	38	正直	10	言う	36	困る	15
頼る	35	良い	10	任せる	34	仕事	15
人間	33	一緒	9	相互	29	背中	15
任せる	29	言う	9	関係	28	必要	15
必要	29	言葉	9	無条件	27	与える	15
裏切る	23	思いやり	9	疑う	25	話す	15
嘘	21	持つ	9	思う	25	考える	14
大切	21	悪い	8	約束	24	頼る	14
絆	21	気	8	騙す	24	他	13
生きる	19	繋がり	8	持つ	19	打ち明ける	13
思える	18	仕事	8	守る	19	伝える	13
存在	18	重要	8	秘密	19	物事	13
他人	16	助ける	8	理解	19	裏切る	13
困る	15	さらけ出す	7	一緒	18	話せる	13
信用	15	感じる	7	心	18	基本	12
頼れる	15	気持ち	7	お金	17	助け	12

⁴KH Coderにおける「前処理」を実行することにより、テキスト中から自動的に語を取り出される。また、語尾が変化しているものは原型として統一され、品詞に分類されて抽出語リストが作成される。

中国人では、「信頼」の出現回数が200超で最も多くなっており、続いて「人」(172回)、「信じる」(142回)、「相手」(127回)、「自分」(106)であった。その他、出現回数が多かった語は「誠実」「他人」「安心」「お互い」「言う」「任せる」であり、いずれも30回を超えていた。日本人と中国人の回答の共通点として、いずれも「相手」「自分」「信じる」「安心」「お互いに」が上位にあることが挙げられる。

②「信頼されるには、大切なものは何か」についての抽出された頻出語リスト

次は、「信頼されるには、大切なものは何か」に関する自由記述について、頻出語を抽出した。前処理を実行した結果、日本人の総抽出語数は7,248(使用数3,344)、異なり語数は785(使用数631)、中国人の総抽出語数は6,779(使用数3,244)、異なり語数は675(使用数541)であった。頻度順で抽出した際の上位50位の語とその出現頻度を表6に示す。

日本人では、出現回数が50回を超えている語は「相手」(189回)で最も多く、続いて「嘘」(131回)、「自分」(117回)、「信頼」(92回)、「守る」(64回)、「人」(61回)、「行動」(60回)、「思う」(59回)、「誠実」(54回)、「約束」(53回)であった。その他、出現回数が多かった語は「正直」「言う」「考える」であり、いずれも30回を超えていた。

中国人では、「誠実」の出現回数が400回超えで最も多くなっており、続いて「人」(172回)、「接する」(161回)、「相手」(145回)、「信頼」(107)であった。その他、出現回数が多かった語は「自分」「約束」「心」「守る」「込める」「信じる」「行動」「他人」であり、いずれも30回を超えていた。このように上位にある高頻度の単語同士は回答内で共起している可能性が考えられる。次節により詳しい分析を行う。

表6 「信頼されるには」について抽出された頻出語リスト(上位50語)

日本人				中国人			
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
相手	189	言葉	16	誠実	416	考える	15
嘘	131	態度	15	人	172	能力	15
自分	117	聞く	15	接する	161	素直	14
信頼	92	コミュニケーション	14	相手	145	尊重	13
守る	64	関係	13	信頼	107	大切	13
人	61	意見	12	自分	75	与える	13
行動	60	困る	11	約束	58	時間	12
思う	59	示す	11	心	57	助ける	12
誠実	54	実績	11	守る	50	お互い	11
約束	53	他人	11	込める	42	重要	11
正直	37	考え	10	信じる	41	責任	11
言う	33	思いやる	10	行動	37	相互	11
考える	33	信じる	10	他人	37	優しい	11
時間	28	見る	9	正直	29	立場	11
大切	27	思いやり	9	誠意	28	言動	10
接する	25	信用	9	実行	22	仕事	10
伝える	24	素直	9	接す	22	品格	10
持つ	23	対応	9	持つ	21	理解	10
誠意	23	知る	9	態度	21	関係	9
気持ち	20	取る	8	得る	19	信用	9
話	19	心	8	他者	18	真心	9
話す	18	積み重ね	8	嘘	17	尊敬	9
裏切る	17	相談	8	コミュニケーション	16	知る	9
見せる	16	約束事	8	示す	16	必要	9
言動	16	お互い	7	言う	15	立つ	9

共起ネットワーク

抽出後の出現頻度と抽出語同士の関連性を要約するために、共起ネットワークの分析を行った。共起ネットワークとは、出現パターンの似ている語、抽出語間の共起性の強さをネットワーク図で可視化するものである。今回の分析では、関連性の強さを示す共起関係の算出には Jaccard 係数 (0.2 以上) を使用し、抽出語の最小出現回数を 5 回、描画する共起関係の絞り込みを描画数 60 と設定し分析を行った。

また、共起ネットワークについては、単に語がお互いに近く配置されているというだけでは、それらの語の間には強い共起関係があることを意味しておらず、重要なのは線で結ばれているかどうかである。さらに、共起性の分析を行うことが目的であるため、出現回数が多くても、共起性が低い抽出語は表示されない。

共起ネットワーク図の結果の見方について以下に説明する。比較的強くお互いに結びついている語を自動的に検出し、グループに分けられ、その結果は色分けによって示される。背景が白で、丸い囲み枠が黒であれば、他の語とグループを形成していないことを表している。また、円の大きさは出現語の頻度の高さを示し、円と円を結ぶ線の太さは、共起関係の強さを示している。

①「信頼とは何か」についての共起ネットワーク

「信頼とは何か」についての日本人の共起ネットワーク図を図 2 に示した。実線で結ばれた語のグループは 10 個あった。

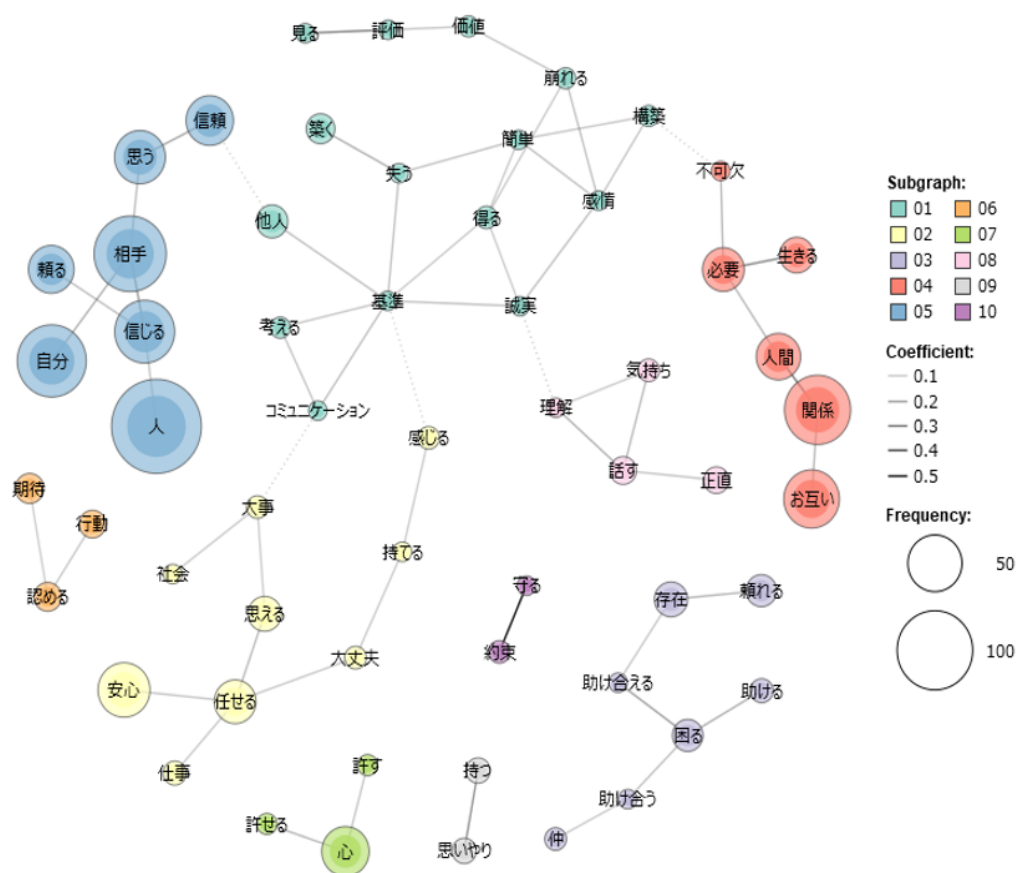


図 2 日本人の信頼の意味に関する自由記述の共起ネットワーク

大きなグループの1つ目として、「基準」や「失う」を中心に、「他人」「コミュニケーション」「築く」などの15語の共起関係が認められ、「信頼はコミュニケーションの基準である」、「信頼は簡単に構築できない、簡単に失う」に関するものであった。2つ目として、「任せる」を中心に、「安心」「大丈夫」「思える」などの9語の共起関係が認められ、「信頼とは安心に任せる、任せても大丈夫」に関するものであった。3つ目として、「困る」を中心に、「助け合う」「助ける」「助け合える」などの7語の共起関係が認められ、「困っているときに、助け合える存在」に関するものであった。4つ目として、「不可欠」「必要」「生きる」「人間」「関係」「お互いに」の6語の共起関係が認められ、「信頼は人間関係に必要であり、生きるには必要である」に関するものである。5つ目として、「相手」を中心に、「信じる」「自分」などの7語の共起関係が認められ、「信頼とは相手を信じること」に関するものであった。その他、「理解」「気持ち」「話す」「正直」の4語、「期待」「認める」「行動」の3語、「心」「許せる」「許す」の3語、「約束」「守る」の2語、「思いやり」「持つ」の2語の共起関係が認められた。

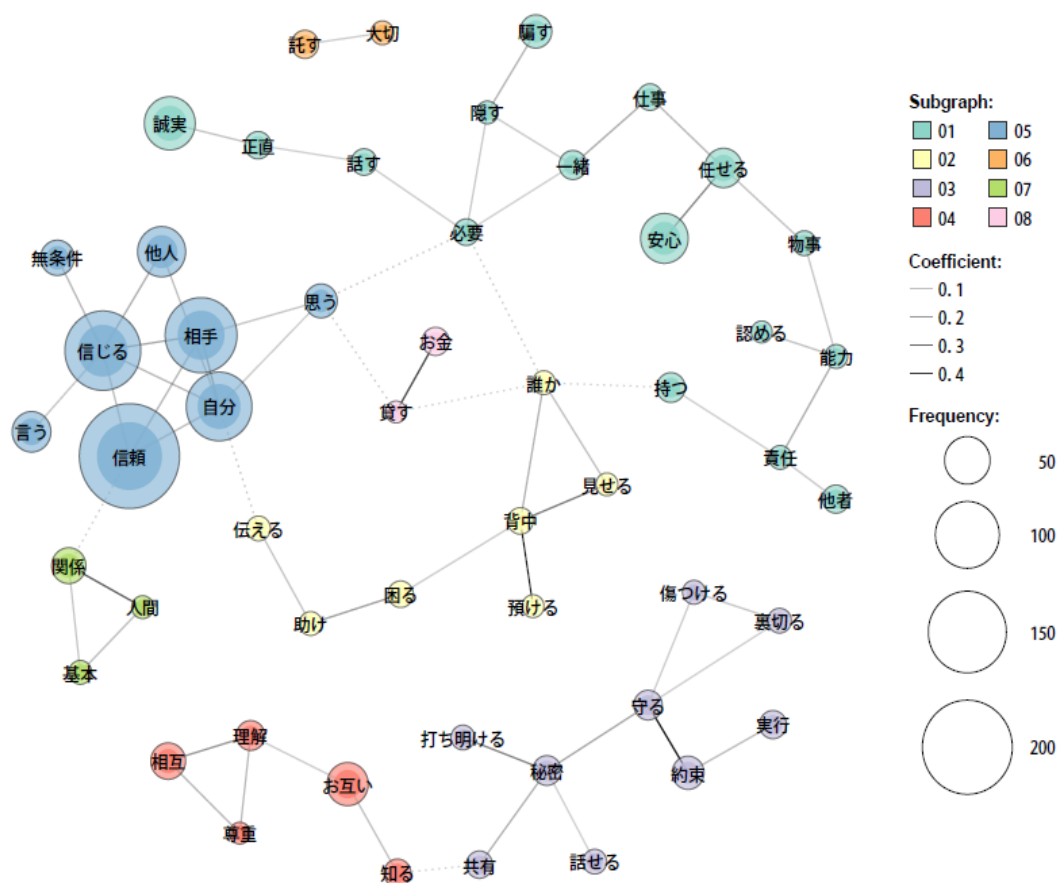


図3 中国人の信頼の意味に関する自由記述の共起ネットワーク

「信頼とは何か」についての中国人の共起ネットワーク図を図3に示した。実線で結ばれた語のグループは8個あった。大きなグループの1つ目として、「能力」や「任せる」「必要」を中心に、「認める」「物事」「仕事」などの16語の共起関係が認められ、「能力を認める」、「物事や仕事を安心して任せる」に関するものであった。2つ目として、「助け」「背中」

を中心に、「困る」「伝える」「預ける」などの7語の共起関係が認められ、「困ったときに助ける」「誰かに背中を見せる・預ける」に関するものであった。3つ目として、「秘密」「約束」を中心に、「打ち明ける」「共有」「話せる」「実行」などの7語の共起関係が認められ、「信頼とは秘密を共有する、打ち明けること」「信頼とは約束を守る、約束を実行すること」に関するものであった。4つ目として、「相互」を中心に、「理解」「尊重」などの4語の共起関係が認められ、「信頼とは、相互理解、相互尊重」に関するものであった。5つ目として、「信じる」を中心に、「無条件」「他人」「相手」「関係」などの8語の共起関係が認められ、「信頼とは、相手・他人を信無条件に信じること」に関するものである。その他、「大切」「託す」の2語、「人間」「関係」「基本」の3語、「お金」「貸す」の2語の共起関係が認められた。

日本人と中国人の「信頼とは何か」に関する自由記述の共起ネットワーク図を比較したところ、日中とも「相手」と「信じる」を中心とした共起ネットワークが得られたが、中国人では、「無条件」と「信じる」の間には共起関係が示されているが、日本人では、「無条件」という言葉が見当たらない。また、日本人にはなかったが、中国人では、「お金」と「貸す」との間、「大切」と「託す」の間には共起関係が認められた。このように、中国社会では、信頼とは、「お金を貸せるのか」「大切なものを託せるか」などの行為で測られることが示唆された。一方、日本人においてのみ、「基準」を中心としたネットワークでは、「簡単」、「失う」と「崩れる」が含まれている点が興味深い。日本では、「信頼は簡単に崩れる・失う」と思われていることが示唆された。

②「信頼されるには大切なこと」についての共起ネットワーク

「信頼されるには大切なのは何か」についての日本人の共起ネットワーク図を図4に示した。実線で結ばれた語のグループは8個あった。

大きなグループの1つ目として、「行動」や「伝える」「立場」を中心に、「示す」「言葉」「素直」「気持ち」「考える」などの14語の共起関係が認められ、「行動・言葉・言動で示す」、「考えや感謝、気持ちを素直に伝える」、「相手の立場を理解して考える」に関するものであった。2つ目として、「見る」「目」「話」「聞く」「相談」の4語の共起関係が認められ、「相手の目を見て、話や相談を聞く」に関するものであった。3つ目として、「意見」「言う」「ルール」「尊重」「困る」「助ける」「真面目」「生きる」の8語の共起関係が認められ、「自分の意見を言う」「ルールを尊重する」「真面目に生きる」「困っていたら、助ける」に関するものであった。4つ目として、「対応」「望む」を中心に、「笑顔」「丁寧」などの9語の共起関係が認められ、「笑顔で対応する。丁寧に対応する」に関するものであった。5つ目として、「お互いに」「分かる」「心」「開く」の4語の共起関係が認められ、「お互いに分かり合えて、心を開く」に関するものである。6つ目として、「誠意」「取る」を中心に、「接する」「見せる」「責任」「コミュニケーション」などの8語の共起関係が認められ、「誠意を見せる、誠意を持って接する」「責任を取る、コミュニケーションを取る」に関するものであった。7つ目、「約束」「約束事」「守る」の3語の共起関係が認められ、「約束を守る」に関するものであった。8つ目として、「信頼」「相手」「自分」「思う」「大切」「人」の6語の共起関係が認められ、「自分が相手を信頼する」に関するものであった。

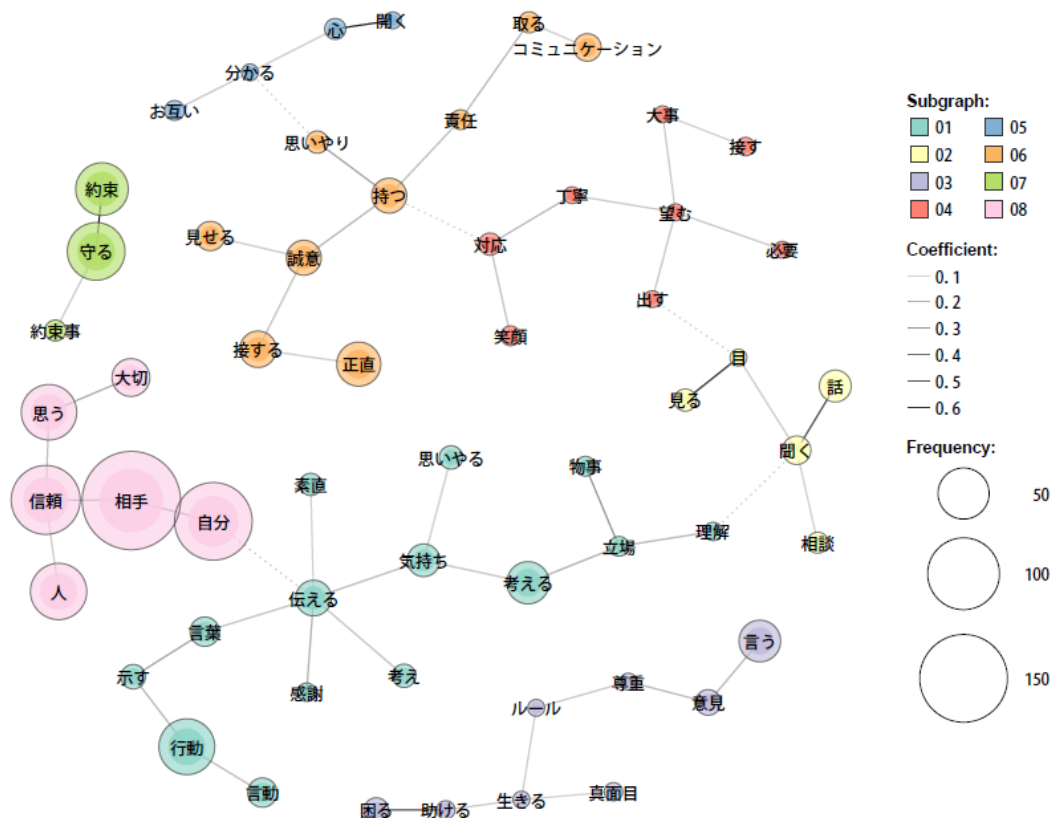


図 4 日本人の「信頼されるには大切なこと」に関する自由記述の共起ネットワーク

「信頼されるには大切なのは何か」についての中国人の共起ネットワーク図を図 5 に示した。実線で結ばれた語のグループは 8 個あった。大きなグループの 1 つ目として、「知る」「示す」を中心に、「能力」「互いに」「誠意」「姿勢」21 語の共起関係が認められ、「互いに知る」「自分の姿勢を見せる」「本当のことを言って、誠意を見せる」に関するものであった。2 つ目として、「約束」「守る」「実行」「言行」「一致」などの 7 語の共起関係が認められ、「約束を守る・有言実行・言行一致」に関するものであった。3 つ目として、「誠実」や「接する」「相手」「信じる」などの 8 語の共起関係が認められ、「誠実に人に接する、心を込めて接する」「相手を信じる」に関するものであった。4 つ目として、「立場」「思いやる」「気持ち」「考える」などの 11 語の共起が認められ、「相互理解」「相手の立場に立って物事を考える」「気持ちを思いやる」に関するものであった。5 つ目として、「良い」「性格」「品格」の 3 語の共起関係が認められ、「良い性格・品格」に関するものである。6 つ目として、「素直」「考える」の 2 語の共起関係が認められ、「考えを素直に伝える」に関するものであった。7 つ目として、「他者」「助ける」「尊重」の 3 語の共起関係が認められ、「他者を助ける・他者を尊重する」に関するものであった。8 つ目として、「真実」「事実」の 2 語の共起関係が認められ、「事実に基づいて真実を求める」に関するものであった。

日本人と中国人の「信頼されるには」に関する自由記述の共起ネットワーク図を比較したところ、日中とも「相手」と「信じる・信頼」を中心とした共起ネットワークが得られたが、中国人では、「心」と「込める」の間には共起関係が示されているが、日本人では、そのような言葉が見当たらない。また、日本人にはなかったが、中国人では、「性格」「品格」「良

い」のネットワークが抽出された。中国では、信頼を得るには、心を込めて相手に接することや、良い性格と品格をもつことが重要であるとうかがえる。一方、日本人においてのみ、「聞く」を中心としたネットワークが抽出され、「目」、「見る」「話」と「相談」が含まれており、相手の目を見て話や相談を聞くことが信頼を得ることにつながるとうかがえる。

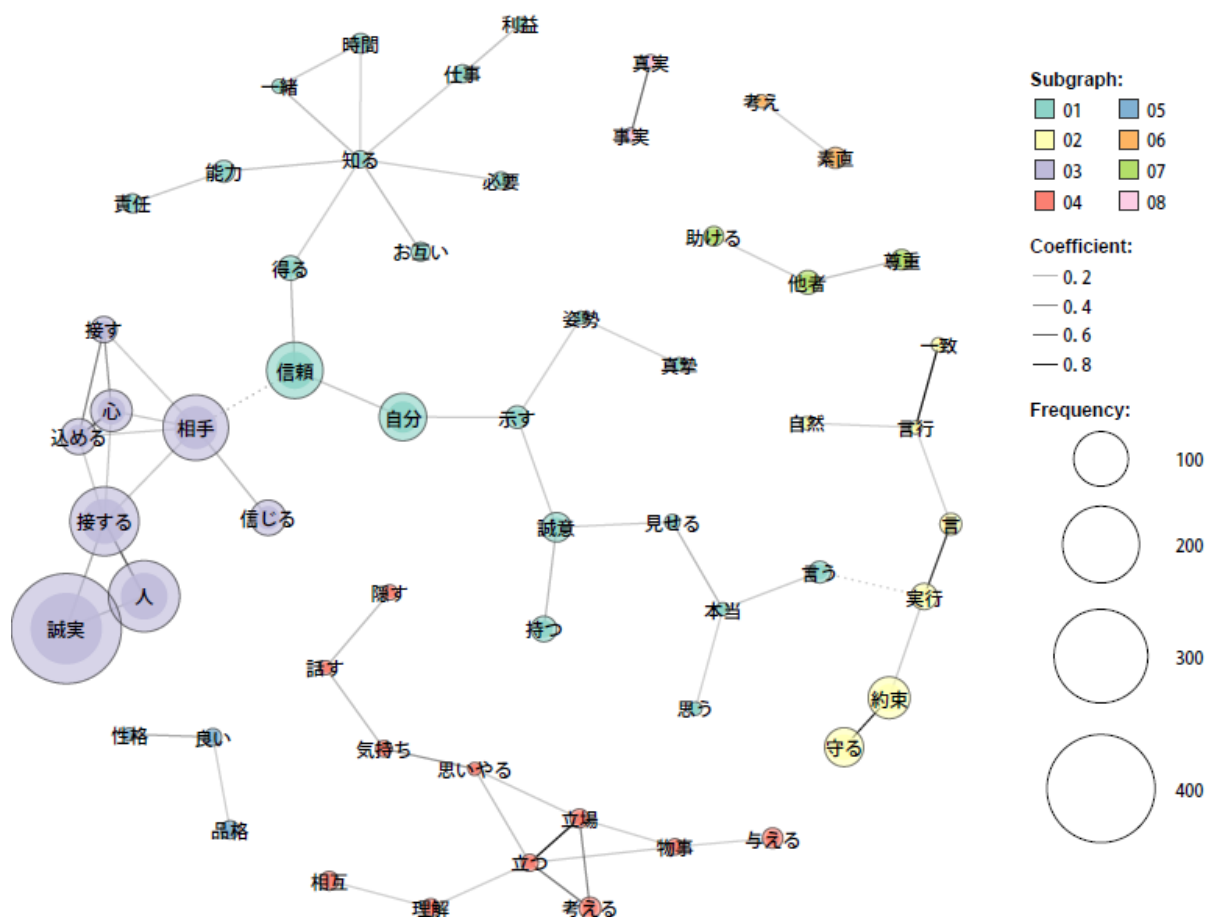


図5 中国人の「信頼されるには大切なこと」に関する自由記述の共起ネットワーク

総合考察

本研究では、「信頼とは何か」「信頼されるには大切なことは何か」について、日本人と中国人の記述を、KJ法に準拠する形でカテゴリーの分類を行うとともに、テキストマイニングの手法を用いて、信頼感に関する意味構造を多角的に検討した。テキストマイニングの手法を用いて分析することによって、実際に記述した文章は、どのような語句が共起し、どのような表現がなされているのかについて、個別の記述内容と共起ネットワーク図を照合することで、信頼感に対する理解の実態を客観的に把握することができた。

分析の結果、まず信頼の意味については、KJ法を用いた分析によると、日本人と中国人の両方とも、信頼を「お互いに信じ合うことで、心を許せて素でいられて何でも話せるという安心できる存在であり、困ったときに頼り合う・助け合うこと」と捉えていることが示唆された。この解釈は、Lewis & Weigert (1985) が提唱している、長期的人間関係や感情的つながりに基づく「感情的信頼 (emotional trust)」に当たると考えられる。一方、日中と

も、「嘘をつかない・正直さ」「思いやり・配慮」「不利なことをしない」「相互理解・尊重・容認」「約束を守る・有言実行」「人格・性格」のカテゴリーが得られた。これらは、相手の人間性や自分に対して抱いている感情に関するものであり、「信頼は、相手が自分を搾取しようとする意図をもっていないという期待の中で、相手の人格や自分に対して抱いている感情についての評価に基づく部分に限られる」という山岸（1998）の定義に当てはまると考えられる。このように、信頼の意味に関する記述を日中比較したところ、多くの共通のカテゴリーが得られたことから、日本と中国では、「信頼」が意味する内容は構造上ほぼ等しいことが示唆された。

一方、KJ法と共起ネットワーク図の結果を合わせてみると、中国においてのみ、「疑わない・警戒しない」のカテゴリーが得られ、「無条件」と「信じる」、「大切」と「託す」、「お金」と「貸す」の間には共起関係が認められた。中国社会では、相手が信頼できると判断した場合は、相手を疑わず、警戒せずに無条件に相手を信じて、大切なものを託すように、相手には絶対の信頼を寄せるのではないかと推察される。一方、日本においては、「信頼は簡単に崩れる・失う」に関する記述が多くみられた。日本社会では、相手が信頼できると判断したとしても、そのような信頼関係がいつまで続けられるのかが不安で、相手のことを完全に信頼することがなかなか難しいのではないかと推察される。

「信頼されるには大切なものは何か」については、日中とも、信頼されるには、嘘をつかないこと、誠実さや正直さが最も大切であると思っていることが示唆された。認知的信頼には、能力（Ability）、善意（Benevolence）、誠実さ（Integrity）の3つの次元があると指摘されており（Mayer, Davis & Schoorman, 1995）、日本と中国においては、認知的信頼における「誠実さ」が最も重視されていることがうかがえる。

また、日中とも、相手の信頼を得るには、まず自分から相手を信じることが大切であり、日頃の行動が信頼獲得につながると捉えていることが示唆された。具体的な記述をみると、「信頼は相互的なものであり、相手に信頼されたい場合は、まず自分から相手を信頼する必要がある」などに関する内容であった。この結果から、これまで報告されている一般的信頼感の日中文化差の解釈について、以下の仮説を立てることができるのではないかと考えられる。すなわち、中国人が日本人よりも高い一般的信頼感をもっているのは、中国人は日本人よりも、他者に信頼されたい欲求が高いからであるかもしれない。この点については、今後、実証的に確かめる必要がある。

結語

本研究では、日本人と中国人の信頼感について、質的な側面から日中文化差について検討した。これまでの信頼感に関する文化比較研究は、「信頼」はそれぞれの文化においては同じ意味をもっており、同じ指標で測定できることを前提としているが、果たして本当にそうであるかどうかについては、実証的に検討している研究がほとんどない。本研究により、日本と中国では、「信頼」の意味する内容は構造上ほぼ等しいことが示唆された。また、日本人と中国人の一般的信頼感の違いの解釈に知見を与え、「信頼されたい欲求」によって説明できる可能性を提示している。

一方、本研究の限界として、日中の大学生と社会人の両方を対象に検討したが、本研究は

無作為抽出による調査対象者の選定を行えていないこと、日中とも社会人の調査対象者は40代以下であり、サンプルの年齢が偏っていることが挙げられる。

今後、信頼の意味と、信頼されるには大切なものについて、本研究で得られた結果をもとに、質問紙項目を作成し、自由記述で取り上げられたそれぞれの要素について、重要度などを量的に評定してもらい、さらなる検討を行う必要があると考えられる。

[Acknowledgement]

本研究は神戸大学国際文化学研究推進センターの2021年度「研究プロジェクト」の助成を受けて、実施している。

引用文献

- Barber, B. (1983). *The logic and limits of trust*. New Brunswick, N.J. : Rutgers University Press.
- Chua, R. Y., Morris, M. W., & Ingram, P. (2009). Guanxi vs networking: Distinctive configurations of affect-and cognition-based trust in the networks of Chinese vs American managers. *Journal of international business studies*, 40(3), 490-508.
- 樋口耕一(2020). 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】 KH Coder オフィシャルブック ナカニシヤ出版
- Janus, T. (2009). “Trust and culture,” *International Game Theory Review*, 11(02):199-206.
- 川喜田二郎・牧島信一(1970). 問題解決学—KJワークブック法 講談社
- Lewis, J. D., & Weigert, A. (1985). Trust as a social reality. *Social forces*, 63(4), 967-985.
- 林萍萍(2020). 中国人の一般的信頼はなぜ高いのか—「誰を想起して回答するのか」による検討— 日本心理学会第84回大会
- 林萍萍(2021). なぜ中国では一般的信頼感が高いのか 岩井紀子・穴戸邦章(編) データで見る東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本—東アジア社会調査による日韓中台の比較4 ナカニシヤ出版 95-96.
- Luhmann N.(ルーマン N.) (1968=1988). 信頼—社会の複雑性とその縮減(野崎和義・土方透訳) 未来社
- Luhmann, N. (1979). *Trust and power*. New York: John Wiley & Sons.
- Mayer, R. C., Davis, J. H., & Schoorman, F. D. (1995). An integrative model of organizational trust. *Academy of management review*, 20(3), 709-734.
- 中村隆・土屋隆裕・前田忠彦(2015). 国民性の研究 第13次全国調査—2013年全国調査— 統計数理研究所 調査研究レポート No.116.
- 大隅昇・保田明夫(2004). テキスト型データのマイニング—定性調査におけるテキスト・マイニングをどう考えるか— 理論と方法 19(2), 135-159.
- Putnam, Robert D. (1993). The Prosperous Community. *The American Prospect*, 4(13), 35-42.
- 佐々木正道(2014). 信頼感と属性に関する国際比較 佐々木正道(編著) 信頼感の国際比

較研究 中央大学出版部, 第 8 章

佐々木正道・吉野諒三・矢野善郎(2018). 現代社会の信頼感 国際比較研究 (Ⅱ) 中央大学出版部

Sturgis, P., & Smith, P. (2010). Assessing the validity of generalized trust questions: What kind of trust are we measuring?. *International journal of public opinion research*, 22(1), 74-92.

高橋知里(2009). 日本・中国における信頼行動と返報行動—文化接合実験を通じた実証研究 北海道大学博士学位論文

Yamagishi, T. (1988). The provision of a sanctioning system in the United States and Japan, *Social Psychology Quarterly*, 51(3):265-271.

山岸俊男(1998). 信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム 東京大学出版会

山岸俊男・小見山尚(1995). 信頼の意味と構造—信頼とコミットメント関係に関する理論的・実証的研究 *INSS Journal*, 2:1-59.

吉野諒三・大崎裕子(2013). 『主観的階層帰属意識』, 『満足感』と『信頼感』 行動計量学 40(2), 97-114.